

第三十二回 「全日本中学生水の作文コンクール」 岐阜県優秀作文集

水について考える

主催

国土交通省、岐阜県

後援

文部科学省、全日本中学校長会

独立行政法人 水資源機構

水の週間実行委員会

「全日本中学生水の作文コンクール」について

「全日本中学生水の作文コンクール」は、次代を担う中学生の皆さんに、暮らしの中で体験している水にまつわる話や、祖母、両親、先生から学び聞いた話などをもとに、「水」や「今後の水の使い方」について、考えていただくという趣旨で、「水の週間」の行事の一環として実施しています。

今年、第三十二回を迎え、岐阜県内では百十五作品の応募があり、岐阜県表彰として最優秀賞一作品及び優秀賞二作品を選定しました。

この三作品について、このたび優秀作文集としてとりまとめました。いずれも中学生の皆さんの真剣な思いが伝わってくる作品です。ぜひ御一読ください。

「第三十二回全日本中学生水の作文コンクール」

一．応募要領

- ① テーマ：「水について考える」（題名は自由）
- ② 対象：中学生（中学生と同じ学齢の者を含む。）
- ③ 原稿：四百字詰め原稿用紙四枚以内で日本語により表記されたもの
- ④ あて先：岐阜県県土整備部河川課（岐阜県内の応募者）
- ⑤ 募集締切日：平成二十二年五月十七日（到着分有効）
- ⑥ 著作権等：○応募作品は個人作品に限る。

○応募作品の著作権は国土交通省及び岐阜県に帰属する。

○応募作品は返却しない。

二．応募状況

応募学校数 二校

応募総数

百十五作品（一年：四十三作品、二年：五十五作品、三年：十七作品）

三. 審 査 応募作品について岐阜県で審査（地方審査）を行い、岐阜県表彰として最優秀賞一作品、優秀賞二作品を選定。なお、これら三作品について、中央審査対象作文として国土交通省に推薦。

目次

岐阜県最優秀賞

「水と地球とわたしたち」・・・・・・・・・・・・・・・・・・可児市立蘇南中学校三年・・・・・・・・渡邊 真美 3

岐阜県優秀賞

「水は日本の宝物」・・・・・・・・・・・・・・・・・・可児市立蘇南中学校二年・・・・・・・・西尾 深月 5
「水の大切さ」・・・・・・・・・・・・・・・・・・大垣市立赤坂中学校一年・・・・・・・・清水 舞子 7

岐阜県最優秀賞

「水と地球とわたしたち」

可児市立蘇南中学校

三年 渡邊 真美

「水の味」について、あなたは深く考えた事があるでしょうか。

一般的に、水は「温度」や「香り」そして「成分」の三種類がおいしきの決め手となります。温度や成分の構成は簡単で、少なめのミネラル（カルシウムやマグネシウムなど）が成分に含まれる事で、適度な炭酸がさわやかさを伝えるので、このような条件がそろった時、皆さんがつい、「ああ、おいしい」と言ってしまうような水が出来るのです。

——しかし、「これでは一つ問題が残ってしまいました。いくら温度や成分が整っていても、水自身が汚濁されていては意味がありません。

私は、このような疑問から地球に住む人々が「安全」で「おいしい水」を飲料できるまでについて自分なりに調べてみようと考え、様々な水についての知識を深めるようになりまし

た。

まず第一に、現在では多くの方々が上水道を利用しています。上水道の水は、浄水場で細菌などが取り除かれ、塩素消毒を行った後、水質基準を満たした上で私達の家庭に運ばれます。こうした作業をする事で、私達は安全でおいしい水を得られるのです。

ですが、第二に考えてほしい事は、「私達の生活と水」です。私達が生活するために必要不可欠である水は、私達が出す生活排水が水質汚濁を悪化させている事を、あなたはご存知ですか。

例えば、天ぶら油四十ミリリットルをそのまま流してしまうと、生き物の住める河川に戻すには、風呂おけ約四十杯分が必要となります。また、これらは、下水道がある地域ではあまり問題になりませんが、下水道が完備されていない所では、未処理のまま海や川へ流出してしまうのです。つまり、私達が日常出す生活排水により、大切な水は次々と汚れていくという事実があるのです。

——では、私達は一体何をすれば良いのでしょうか。解決策は簡単です。まず、私達は身近な事から生活排水の処理量を減らすべきだと私は思います。

私の家では、実際お風呂の残り湯を洗濯機の洗い水として再利用しています。また、油の付着したフライパンも、キッチンペーパーなどで綺麗にしてから洗うようにしています。

このように、身近な事から生活排水やその汚れを減らす活動を、あなたもぜひ挑戦してみてくださいいかがでしょうか。

一人一人が、水質汚濁という問題にこうして向き合う事で、日本だけでなく、この世界に住む多くの人々が、綺麗で豊富な水をいつか飲む事ができると思います。

私は、日本という「豊富な緑と『水』」に囲まれた平和である国に生まれて、水の大切さやありがたさをあまり実感する事ありませんでした。

しかし、中学生になり、次第に今現在起きている事に対し、学ぶ意欲を持つ事ができました。「生活排水による水質汚濁」という問題に対して、これから私達は大切な地球の『財産である水』を、私達自身が守っていかなければなりません。

「水の大切さ」を忘れてしまった人々もいるかも知れませんが、一人一人が活動して、この先も、何万年と何億年と私達は、綺麗な『水という私達のパートナー』を守り続ける義務があると思います。

私達は、おいしく安全な水を得ると共に、この地球の財産を皆で守らなくてはなりません。

水と生きる私達と未来のために。

——— 水と緑の天体、地球。

「水は日本の宝物」

可児市立蘇南中学校

二年 西尾 深月

水に恵まれた国”日本”。そんな豊かな国で暮らすみなさんは、水の無駄遣いをしていないでしょうか。ありがたいことに日本では、蛇口をひねれば好きなだけきれいな水が出ます。それはとても便利な事ですが、同時に日本人の無駄遣いに対する意識を低下させるものもあると思います。そこで私は水の無駄遣いについて少し調べてみました。

まず、一日どれだけの水が使用されているのかという疑問に対して、人は一人一日約三百二十四リットルの水を使用しているという答えが得られました。しかしみなさん、私はこれはもう少し減らせるのではないかと思えます。例えば、洗面所やお風呂で水を出しっぱなしにはしていないでしょうか。蛇口を十秒間開けっぱなしにすると、約二リットルもの

水が流れていってしまいます。出しっぱなしをなくすという小さな事ですが、これだけでも毎日取り組めば、かなりの量の無駄遣いを減らす事ができると思います。

次に、水の無駄遣いによる水不足がもっと進んだ場合、どんな事が起こるのかという疑問に対し、砂漠化が進むという答えが得られました。今、日本だけでなく、地球全体の問題として砂漠化が挙げられています。今後、今よりもっと砂漠化が進めば、地球温暖化の進行にもつながるということが分かりました。従って、生態系への被害も広がっていくと考えられます。

では、これらの事を防ぐために、私達ができる事はないのでしょうか。やはり、一番身近にできる事は、先に書いた通り、水の無駄遣いをなくす事だと思えます。出しっぱなしをなくすという事も大切ですが、私は少し視野を広げ、水の汚染を減らすという事に目を向けました。貴重な資源である水を少しでも有効に使うということは大切な事だと思えます。

そこで私は、実際に地域の川へ行つて水がどれだけ汚染されているかを見てきました。結果は、水が少し濁り、ゴミが落ちていました。そこからいかに私たちは無頓着か、ということがわかりました。しかし、今からでも私たちにできる事

はあります。油や醤油等を直接水道に流さないという事です。

例えば、醤油大きじ一杯をそのまま川に流したとします。

するとその川を魚の住めるきれいな川に戻すには、三百リットルの風呂おけ約一・七杯分もの水が必要になります。川をきれいにするのは大切な事ですが、これだけの水を使っているのは、無駄遣いと思われないと思います。それを防ぐためには、油で汚れた食器は軽く拭いてから洗うとか、洗剤の使用量を減らすなど、私たちにもできる事がたくさんあります。私は是非実践したいと思ったし、私以外にも多くの人に実践してもらえれば良いなと思いました。

今、世界には水がなくて困っている国が多くありますが、日本では当たり前前に水道水を飲む事ができます。私は今回、これはとても幸せな事だということが知れてよかったです。しかし、水に困っている国の人々が今の日本を見たらどう思うでしょうか。私は「水に恵まれながらも水のありがたみがわからないなんて、日本人はなんて可哀相なんだろう」と思われてしまうと思います。先にも書いた通り、水に恵まれて暮らすというのはとても幸せな事です。しかし今、私たちはその幸せを自らの手で崩そうとしています。恵まれていないからありがたみがよくわかる、ではなく、恵まれているから

こそ、そのありがたみをわかっていないといけないのではな
いかと私は思います。

もう一度、水について見つめ直すと共に、水はもちろん、
これからの地球のためにも一人でも多くの人の心に私の意見
が反映される事を期待します。

「水の大切さ」

大垣市立赤坂中学校

一年 清水 舞子

私の住んでいる大垣市は、数々の自噴水がわき出るほど地下水が豊富なことから、「水の都」と呼ばれています。大垣市の水道水は全て地下水が使われています。それほど水が豊富な町です。水は私たちが生きていくための大切な資源です。私たちが普段、何気なく飲んだり、使ったりしている水もとても大切なものです。例えば、農業などで作物を作るには水が必要です。また、工業などにも水は必要です。このように、あらゆるものに水が必要です。私たち人間の体は、約六十パーセントが水できています。もし、水をまったくとらないと、約四、五日で死んでしまうそうです。その反対に、水だけで約一週間生きることができそうです。水は、雨が降らないとできません。そして、水は環境にも大きくかかわって

います。雨が降らないと水不足になってしまいます。

以前、テレビで見たことがあります。外国のある国で、水不足で困っている人々の姿や、自分より小さな子供たちが、毎日の日課として、数キロ離れたため池に水をくみにいく子供たちの姿を見ることがあります。その水は、茶色くにごっていて、とても飲めるような水ではありませんでした。しかし、それが飲み水だということを知って、私はとてもおどろいた記憶があります。私たちは、いつもあたり前のよう、きれいで安全な水を飲んだり使ったりしていますが、世界には、水不足で悩んでいる国や、きれいな水が飲めない国があることを知り、私たちは、水にとっても恵まれた国に生まれて、とても幸せだと思いました。しかし、水もかぎりある資源です。私がこのまま水を使いすぎてしまうと、私たちの国もテレビで見た水不足の国のようになってしまいかもしれません。そんなことにならないように、私たちが一人一人水の大切さを意識しなければいけないと思いました。

水不足にならないために自分ができること。それは、はみがきの時などに水を出しっぱなしにしない、たくさん使わないようにしたいです。また、シャワーなどを流しっぱなしにしないように意識したいです。そして、水の大切さを感じな

がら、水不足にならないように大切に水を使っていきたいです。また、水についてや、水の大切さについてこれからも考えていきたいです。そして、これからもこの大垣の町を「水の都」と呼ばれ続けるように、水の大切さを伝えていけるようにしたいと思います。